

参加者全員で「私達の宝物」を合唱しました！



教育委員会だより

益田市教育委員会より 平成26年4月17日発行

第1号

節目の年にあたって

教育長

村川 修

平成26年度は益田市にとつては、大きな節目の年になります。

旧美都町、旧匹見町との合併十周年の年であり、市の政策としては人口拡大計画初年度です。

教育委員会としては、教育ビジョンと社会教育推進計画を策定し、スタートの年です。

このような大きな節目の年には、直接携わる人はもちろんですが、市民全体が地域の一員としての立場から関心をもち、発言し行動することが大切です。

十年前に掲げた合併後の将来像に向かって、地域社会全体がどう取組み、どう変化してきたかを検証し、今後十年間をどう取組んでいくかを決める大きな節目です。

日本社会全体が都市と地方の二極化や少子高齢化、格差社会、価値観の多様化など過去にない大きな曲がり角にあるとも言えます。

こういう中で、それぞれの地域が子どもたちに対して、大切な「ひと・もの・こと」

をきちんと伝承していくことの大切さと、地域社会での人間関係の重要性がどれだけ地域の維持発展につながるかを益田市全体で自覚し、地域ごとに自主的に取組んでいくことが求められていると思います。

今「絆」の大切さが唱えられているのは、経済発展偏重の時代がそれだけ人間関係を疎かにし、現代社会の大きな課題を作ってきたとも言えます。

地域全体の発展を願うとき、人口が減少して各地域単独での自立が一層困難な現代では、旧美都町、旧匹見町と旧益田市の関わりや市街地と周辺地域の皆さんとの関係を改めて見つめなおし、それぞれの地域がお互いの魅力を認識し、支え合うことによりさらに益田市全体の

魅力を高めていく関係づくりが重要ではないでしょうか。次世代のためにも。

「絆」の心は幼児期からの環境により培われるものであり、人と人、地域と地域が支え合って発展させていく地域社会を子どもたちに見せ、参加させることが、地域に対する愛着や誇りに繋がっていくいき、「ふるさと意識」と「絆」の心も培っていくのではないのでしょうか。

その心が豊かな心を育て、目的意識を持って学ぶ力・生きる力を培い、地域の発展に繋がっていくのだと思います。

目次

表紙(学校紹介).....	1 P
教育長寄稿.....	2 P
教育情報.....	3 P
カラフル給食タイム.....	4 P
寄付、寄贈のお礼.....	

発見！ 驚き！ ふるさと再発見・見学バスの旅

中西小学校3年生

歴史民俗資料館にはたくさん
の昔の道具が置いてあり、
子どもたちは職員の方に、そ
の名前や使い方、使われてい
た時代について熱心に質問し
ていました。実際に行燈に火
を灯してもらった時には、今
と違って昔は夜はとても暗か
ったということを実感できた
ようでした。

昔は今と比べて不便なこと
もあるけれど、家族みんなで
協力して家の手伝いをしてい
たことも分かり、昔の家族の
繋がりに、ほのぼのとしたも
のを感じた子どもたくさんい
ました。



歴史民俗資料館の見学

桂平小学校3・4年生

桂平小学校3・4年生は、
社会科の学習で「昔のくら
し」について学習するため
に、歴史民俗資料館に見学に
行きました。

資料館には、明治から昭和
初期に使われていた道具が
たくさんありました。子ども
たちは、職員の方にていねい
に説明していただきながら、
カメラを片手に見て回しま
した。

今後は、撮影した写真をも
とに、現在のくらしとの違い
や昔の人々のくらしや知恵
について考えていき、さらに
学習を深めていきたいと思
っています。

子どもたちの感想です。

「ぼんぼん時計は見たこと
はあるけど、ぜんまいで動か
すことを初めて知りました。
家にも古いものがあるかも
しれないので、探してみたい
です。」

「くるくるまわしてかける

でんわきが顔みたいでし
た。」

「ぼくが一番きょうみをも
ったのは長持ちです。もし長
持ちの中に人が入ったら何
人入れるのかなと思います
た。また家の人で行きたいで
す。」

「ぼくがすごいと思ったの
はくしです。くしをよく見た
らすごくきれいないろでし
た。」

「昔の道具のしちりんとせ
んたく板とでつかいのこぎ
りが家にあるので、大人の人
といっしょに使ってみたい
です。」



歴史民俗資料館の見学

職員の異動がありました

平成26年4月1日付人事
異動による新任職員を紹介し
ます。



・学校給食共同調理場
場長 又賀 禎紀 ①

・学校教育課
課長 福原 司 ②

指導主事 谷崎 真理子 ③

主任 平田 弥生 ④

・社会教育課
課長 大畑 伸幸 ⑤

課長補佐 澄川 巧 ⑥

主査 麻生 英治 ⑦

派遣社会教育主事
澤江 健 ⑧

・匹見分室
主幹 足立 公司

よろしく願います。

2

益田市教育協働化推進事業(つろうて子育て)

益田市では「つろうて子育て」を合言葉に、益田市教育協働化推進事業を行ってまいります。事業がスタートして四周年を迎えましたが、平成25年度は、市内の小中学校に、延べ1万2232人の子育てパートナーが関わってくださいました。

今年度からは本事業を「つろうて子育てプロジェクト」とリニューアルし、学校、家庭、地域で子どもたちの育ちを支えていけるような体制づくりをさらに進めていきたいと考えています。

先日、先生方に実施させていただいたアンケートでは、「学校と地域の思いを共有するための場づくりが必要である」、「地域資源の情報の共有をしたい」、「コーディネートなどが近くにいてほしい」などのご意見をいただきました。

こういったご意見も参考にさせていただきます、今年度は各中学校区で「つろうて子育て



プロジェクト推進協議会」を立ち上げ、子どもを育んでいくための方向性を共有していきたいと思えます。そして、子どもたちが学校内外で地域の良さを感じたり、体験したり、貢献したりできる場を増やしていきたいと思えます。それぞれの地域で積み重ねてきた実践を大切にしながら次のステップに進んでいきましょう。



中須東原遺跡が正式に国の史跡となりました

中須東原遺跡が、3月18日付の官報告示をもって正式に国の史跡に指定されました。益田市内では、スクモ塚古墳、益田氏城館跡(七尾城跡・三宅御土居跡)に続いて三件目の国史跡となります。

現在、文化財課では、史跡指定を記念し、その価値を多くの方に知っていただくため、市内各地に横断幕や展示パネルを掲示しています。

萩・石見空港では、遺跡の概要を説明したパネル展示のほか、無料配布のパネルフレットも置いて、市外・県外の方に向けてもPRしています。



萩・石見空港
(1階カウンター横)

中須東原遺跡からは国内外の陶磁器が発掘され、中須が東アジアに開かれた港湾都市であったことが伺えます。さらに、益田川・高津川の河口に立地することから、それぞれの上流域に位置する美都の都茂鉱山で採れた銅・銀や、匹見の材木などを国内外に搬出する積み出し港としても機能していたと考えられます。



益田市役所本庁舎正面

今後、本遺跡を含む益田氏関連遺跡群をはじめとした市内の遺跡について、市内外の方々に広く知っていただけるよう、周知に力を入れていきます。

このほかに、美都総合支所正面、匹見総合支所正面、益田水質管理センター(中島町)、益田市立水防センター(中島町)、JR益田駅正面にも横断幕を設置しています。



中須会館(道路側)



★イチゴを丁寧に洗浄する様子

初の「食育の日」2回実施!

学校給食には児童生徒が「ふるさと益田」を感じ取れるようにと、様々な工夫と労力が注がれています。3月の献立では、益田産のイチゴを使用し、初めての試みとして「益田の食育の日」を2回設定しました。

益田産のイチゴは粒立ちも良く甘いことから、その品質の高さが広く認識されつつありますが、昨年来の天候不順の影響で必要数が確保できないという事態に陥りました。生産者や流通業者と何度も協議を重ねた結果、一度に益田産のイチゴを児童

労を惜しまず質を追求

生徒に提供することは難しいと判断しました。それでも何とかして益田産の美味しいイチゴを食べてほしいという強い願いから、今回益田産のイチゴを2回に分けて提供する事にしました。

初の試みの為事前の準備にも時間を費やし、献立作成会議では給食配送時に容器の中でイチゴが動く事による「型くずれ」を懸念する意見が相次ぎました。「どうしたらイチゴをきれいな形のまま学校に届けられるか」と思案した末、人数の少ないクラスは別途アルミホイルでイチゴを覆って対応する事にしました。

また、毎月配布する給食だよりには「見て、感じて、食べてみよう!」と題した生産者の皆さんを紹介する記事を記載しています。3月はイチゴの生産者を取り上げ、「どのような想いでイチゴを育てているか」といった点を分かり

★3月14日の献立

麦ごはん、イチゴ、塩昆布和え
チキンカレー、牛乳、



献立作成 濱田 由美子

やすく説明することで、児童生徒の感謝する気持ちを育むといった教育的観点からも相乗効果を高められるよう配慮しています。

こうして児童生徒に届けられた益田産イチゴですが、真っ赤に色づいたイチゴの鮮やかさを見て楽しんで、更にとびきりの甘さも味わってもらえたものと確信しています。今後も地元産食材を活かした献立を提供し、地産地消の意義を伝えていきます。

奇贈、寄付のお礼

- 益田市奨学金へ寄付
- ・中野 傳 様 (駅前町)
- ・梅寿会 様
- ・藤井 享 様 (広島市安佐北区)

益田市教育ビジョン

益田市社会教育推進計画策定

益田市教育ビジョンに併せ、社会教育の推進のための計画を策定しました。今後は、この益田市教育ビジョンに掲げる「めざす子ども像」の実現と、益田市社会教育推進計画が目指す社会教育の推進に向け、取組んでまいります。



※益田市教育ビジョン、益田市社会教育推進計画は、益田市ホームページからダウンロードできます。